

つなぐ

地域学校協働活動 ～地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える～

現在、各地域において、地域人材を生かした魅力的な活動が日々展開されています。

今回は、世代や立場を超えた協働の中で、子どもたちに「つくる楽しさ」や「地域を思う心」を育み、地域の力で学びの輪が広がっている3つの実践例をご紹介します。



「寺尾ヶ原でつながる『学びの循環』出会いから、感謝の植樹へ」 ～関市立武芸川中学校～



武芸川中学校では、令和5年に閉校した寺尾小学校区（現在の武芸小学校区）にある寺尾ヶ原を舞台に、学年を超えたふるさと教育に取り組んでいます。

2月、卒業を前にした3年生48名が、「千本桜」で知られる寺尾ヶ原で桜の植樹を行いました。生徒たちは苗木のそばに、40歳の自分に宛てた手紙を入れたタイムカプセルを埋め、「また桜が咲くころ、ここへ来たい」「その時に再び仲間と集まりたい」と、それぞれが未来への思いを語りました。

地域への感謝とこれからへの願いを込めたこの活動は、卒業前の大切な節目となりました。

そして、4月。入学したばかりの1年36名が寺尾ヶ原を訪れました。武芸川連合財産区協議会代表の井上好郎さんから、千本桜の歴史や寺尾ヶ原に込められた人々の思い、そして未来への展望について話を伺いました。また、かつて寺尾小学校で親しまれていた紙芝居も紹介され、生徒たちは地域の文化や記憶に触れながら、ふるさとへの理解を深めました。

寺尾ヶ原を舞台としたこの学びは、単なる体験活動にとどまりません。入学直後の1年生が「出会い」を通して地域とつながり、3年生が「感謝」を形にして巣立っていく、学年を超えてつながるこの取組は、循環しながら地域の未来へと広がっています。



「地域の安心安全は、大人も子どもも一緒につくる」

～あさひ夢のまち協議会～



あさひ夢のまち協議会では、年間約11回、地域の子どもたちと関わる行事を行い、継続的なつながりを大切にしています。活動は楽しい体験にとどまらず、「いざというときに支え合える関係づくり」を目指しています。

3月には、旭ヶ丘小学校6年生児童70名と協議会のメンバーに

よる地域のトンネル清掃が行われました。実施にあたっては、事前に子どもたちが地域活動の意味や思いを学ぶ時間が設けられ、それが主体的な行動へとつながっています。「たわしを持っていてもいいですか」といった声がかかるなど、自ら考えて準備しようとする姿も見られました。

当日は、暗く汚れた印象のあったトンネルを、安心して通れる場所にしようと、子どもたちと地域の方が一緒に取り組みました。「思ったより汚れている」「きれいになると嬉しい」と話しながら友だちと協力する姿が見られました。また、「もっと地域に関わって生活したい」と話す児童もいました。

この取組は前年度に続き2回目であり、活動を積み重ねる中で、子どもと地域とのつながりが着実に育まれています。



「地域みんなの居場所『まきカフェ』オープン！」

～美濃市 牧谷保育園～



令和4月、牧谷保育園の敷地内に、週1回オープンする地域の交流拠点「まきカフェ」が誕生しました。

このカフェは、地域住民をはじめ、美濃市役所（福祉子ども課・高齢福祉保険課）、地域おこし協力隊、社会福祉協議会、森林文化アカデミーなど、多くの関係者の連携によって実現したものです。

まきカフェは、子どもから高齢者まで、さらには認知症のある方や障害のある方など、誰もが気軽に立ち寄れる「みんなの居場所」です。世代や立場を超えた交流を大切に、地域のつながりを育む場として期待されています。

カフェの中には、地域の歴史と思い出が息づいています。テーブルには、保育園で長年親しまれ、昨年惜しまれつつ伐採された樹齢70年を超える桜の木が活用されています。また、椅子には廃校となった美濃北中学校で長く使われていた木工椅子を再利用しています。地域の大切な記憶が、新たな交流の場として生まれ変わりました。

まきカフェは、地域みんなが支え合い、つながり合う拠点として、これからも人と人との交流を広げていきます。



取材依頼等のご連絡お待ちしております！

・地域学校協働活動に関する様々な取材を行っております。「こんな取組みがありますよ」「ぜひ学校、地域を紹介してください」など、下記担当者まで、お気軽にお問合せください。

日程等を調整後、取材をさせていただき、社会教育通信「つなぐ」へ掲載させていただきます。

問合せ先：中濃県事務所 振興防災課 社会教育担当(片桐紀子)

美濃市生櫛1612-2 中濃総合庁舎4階 TEL 0575-33-4011(内線 208)